

## 第2回教育委員会広聴事業について

### 1 概要

教育委員会広聴事業は、教育長と教育委員が、児童生徒・保護者及び教職員などの皆様と直接対話による意見交換を行うことで、より実情に沿った政策立案をしていくために実施している。令和6年度（2024年度）第2回は、ことばの教室及びあゆみの教室をテーマに10月28日（月）に川尻幼稚園を視察し、教職員と意見交換を行った。



### 2 教職員との主な意見交換内容

(1) 市立幼稚園の課題について	
意見・質問	回答
素晴らしい環境で少人数教育ができていて、とてもうらやましいが、園児数が減少すると幼稚園がいないのではという話になりかねない。ことばの教室とあゆみの教室があることで、園児の人数が少しでも増やせると思ったが、見解を伺いたい。（西山委員）	現在の保護者のニーズに合わせて預かり時間ももっと長くしたり、給食の要望に応えたりできないかということは、以前から考えているが、それをすることで民業圧迫となる可能性があるという面もあり、苦慮している。 また、市立幼稚園の立地についても偏っており、3園は中央区の熊本城に近いエリアにあり、北区に楠、南区に川尻、隈庄の2園、西区と東区にはないという状況である。中央区はドーナツ化現象がずいぶん前からあり、東区などはこどもが多いため、こどもの多い地域と幼稚園の立地が合っていない部

	<p>分もある。</p> <p>手前味噌ではあるが、市立幼稚園の教育の内容については、私は自信を持ってお勧めできるし、何よりも当園はこの環境が素晴らしいと思っている。保護者の中には、とりあえずこどもが小さい間は仕事をせず、園に預ける間はこどもにいっぱい遊ばせてあげさせたいからと言って当園を選んで来られる方も数少ないがいらっしゃる。(園長)</p>
<p>園児数を減らさないために、民業圧迫ということは別として、どんなことが考えられるか。(教育長)</p>	<p>費用対効果を全く考えなくていいのであれば、預かり時間は保護者にとって重要視されるため、保育をする職員とは別に、預かりをしてくださる人を任用して、6時まで預かり時間を確保できたらと思う。今、児童育成クラブも7時ぐらいまでされていると思いますが、幼児はあんまり遅くまで預かるのはということもあるため、せめて6時まで確保したいと考える。</p> <p>それから、可能であれば小学校がすぐ隣なので、当園の給食も一緒に作っていただくことができないかなと思っている。以前に一度ご相談したが難しいということだった。お弁当の有無は、保護者にとって負担感が全然違う。</p> <p>もっと贅沢を言わせていただければ、せめて送迎の時に使える駐車スペースを確保したい。終日でなくても送迎の時間帯だけでいいので、例えば、近くの公園にあった老人福祉センターが今閉鎖されて、駐車場や空き地があるので、そこを幼稚園で使用できないかと思っている。今までも、運動会など何かあるときには地域の方をお願いして使用させていただいている。当園みたいにコインパーキングもないところは、送迎時の駐車場が確保できるだけでもある程度の一定数の入園希望はあるんじゃないかと思う。</p> <p>一方で、当園みたいな保育をしたいと思ったときに、園児が百人いると厳しくなる。40人から50人ぐらいが理想で、そうすると一人一人に応じた保育ができるんじゃないかなと思っている。贅沢な理想ではあるが、そんな風に考えている。(園長)</p>

(2) 幼小中の連携や交流について	
意見・質問	回答
<p>幼小中の連携が密であれば、そのことが一つの売りになると思う。本日も自由な遊びの姿を見させていただき、園児が尊重されているのがよくわかる。常日頃願っているのは、幼稚園での環境をそのままに、小学校でも同じようにこどもが尊重されるという環境を大事にしたい。幼稚園が小学校や中学校に合わせるという声をしばしば聞くが、それは逆である。</p> <p>幼稚園と小学校では教員の見る視点も違うので、この幼小のコミュニケーションが大事だと考える。現在、幼稚園と小学校との交流はどの程度あるのか。(苫野委員)</p>	<p>こどもの交流はあるが、小学校の担当の先生が人事異動等で変わると連携が続かないという面はある。幼稚園の立場で言わせていただくと、ずっと以前から、幼稚園側からの片思いという感じである。小学校の先生方に実情を聞くと、外国語、道徳の教科化、ICTの導入などによる多忙が理由にあると思う。幼稚園でのびのびとした保育ができるのは、遊ぶ時間がたっぷり確保できるからである。結局、忙しい小学校に合わせることになる。</p> <p>幼稚園としては小学校にアピールして、突破口としては生活科や総合と考えている。今後、幼児教育の考え方が小中学校以降にも取り入れられていくのではないかと考えている。(園長)</p>
<p>幼稚園の先生方のこども感、取り組んでこられたものを小学校にも伝えるという対話の場を仕組化していく必要がある。幼小中が一体的に教育活動できるように、特効薬はないが対話を続けて進めていけるといい。(苫野委員)</p>	
<p>校区に住む園児はそのまま小学校に進学するのでつながりができる。連携が続かないという話もあったが、園や学校の先生ではなく、連携のコーディネーターが必要だと思う。これは園や学校ではなく教育委員会の仕事になると思うが、川尻だけに限らず、つなぎ役のコーディネーターがいるということは大事なことだと考える。(澤委員)</p>	<p>小学校には市立幼稚園以外の幼稚園や保育園からのこどもが多くいる状況ではあるが、当園との交流によるメリットを小学校の先生方にも伝わるように取組を進めているところである。実際には少ない事例ではあるが、幼小連携があるからということで当園に入ってこられることもある。(園長)</p>

(3) 広報・情報発信について	
意見・質問	回答
園内の見学をしているときにインターネットを通じて来られるという話を聞いたが、どのように発信されているのか。(澤委員)	現在は主にホームページで発信している。しかし、最近の保護者はインスタグラムで情報収集されている。3年ほど前に当園の保護者からインスタグラムで園の発信ができないかと聞かれ、教育委員会に確認して、そのときはできないと話したが、また教育委員会へ要望を出してみようと思っている。 (園長)

(4) ことばの教室及びあゆみの教室について	
意見・質問	回答
ご苦労なさっている点、あるいはこうしたらもっといい教育ができるのではという点など、いろいろ感じておられることがあると思うので、担当の先生方のご意見を伺いたい。(西山委員)	<p>ことばの教室は昨年度から5園で実施となり、担当が1人の向山幼稚園を除いて、各園に担当が2人ずついる状況である。面接は園で直接やっているのので、約200人の受付や通級先の割り振りなどが大変だった。</p> <p>また、各園の担当者同士のやり取りが、園の場所が離れていてやりにくいとすることもあった。しかし、昨年一年の経験をもとにしながら、1～2ヶ月に1回程度集まって担当者会議ができており、昨年度よりも安心して行えている。(教諭)</p> <p>あゆみの教室は、情緒面や社会性、人との関わりを学びに来られているお子様たちなので、保護者の方、担任の先生、普段の生活を見てらっしゃる先生方などと常に連携をとっている。小学校へのつながりも丁寧に行う必要がある。こどもを見ることはもちろんだが、こどもを支える大人同士のつながりという部分に一番力を入れている。</p> <p>また、こどもたちの指導面では、今日も見ていただいたようにグループ活動をする中でこどもたちのよさも課題も出てくる。グループ活動を通して人との関わりも学んでいってほしいと思っている。現在、川尻幼稚園では担当が2人いてグループ活動が可能だが、一新幼稚園は担当が1人で運営しており、こどもと1対1での関わりとなってしまうので、もう一教室増えるといいなと思う。受け入れられる人数も増え、お断りしていた方も受入れが可能になる。</p>

それから、施設面について、ことばの教室は壁で仕切られていて防音ができているが、あゆみの教室はパーティションで仕切られているだけとなっている。保護者の方とお話をするときに、お子様の年齢的にこの時期が一番保護者の方も葛藤される時期で感極まって泣いてしまわれることもあり、周りに声が聞こえてしまう状況である。一方で、壁がないことにより、ほかのお友達の声を聞きながら集中する力をつけることもできるので、メリットとデメリットの両方があると感じている。(教諭)